認定特定非営利活動法人 Cloud JAPAN
2021 年度 活動報告書

令和 4 年 3 月 3 1 日

Cloud JAPAN

認定特定非営利活動法人 Cloud JAPAN
代表理事　田中 惇敏

mail. info@cloud-japan.org
tel. 0226-29-6514
fax.0226-25-7523

目　　次

1. ソーシャルアントレプレナーが集う場づくり支援事業
　1.1 気仙沼子育てコレクティブインパクトプラットフォーム ” コソダテノミカタ ”
　1.2 建築ストック活用の民衆化を目指した支援の研究
2. ソーシャルアントレプレナーが集う場の運営支援事業
　2.1 気仙沼市ふるさとワーキングホリデー
3. ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業
　3.1 家カフェ HATA
4. 地域で活動するソーシャルアントレプレナーに係る情報発信事業
　4.1 講演活動
5. ソーシャルアントレプレナーの育成及び事業促進の教育支援事業
　5.1 錦江町ゲストハウス Yorodde
6. 運営組織
7. 収支報告
　7.1 ２０２１年度活動計算書
　7.2 事業別損益の状況
　7.3 過去７年の助成受託実績
8. 終わりに

1. ソーシャルアントレプレナーが集う場づくり支援事業

本事業では、全国のソーシャルアントレプレナー（認定 NPO 法人 Cloud JAPAN では「誰かのために何かをする喜びを楽しんでいる人たち」と定義する）が地域貢献する上での活動を支援している。

2021 年度は新型コロナウイルスの影響により，昨年のごとく実際に訪れて支援することは難しかったが，社会環境変化に即したオンライン指導環境の整備により，コロナ対応や政府の各支援制度の活用方法などを中心とした支援を続けることができた。

また，活動拠点のある宮城県気仙沼市における社会課題（子育てのしやすさ）解決にフォーカスをあて、コロナ禍が落ち着くまでに集中的に支援を行うことで、新たな課題解決モデルの解決を目指す。

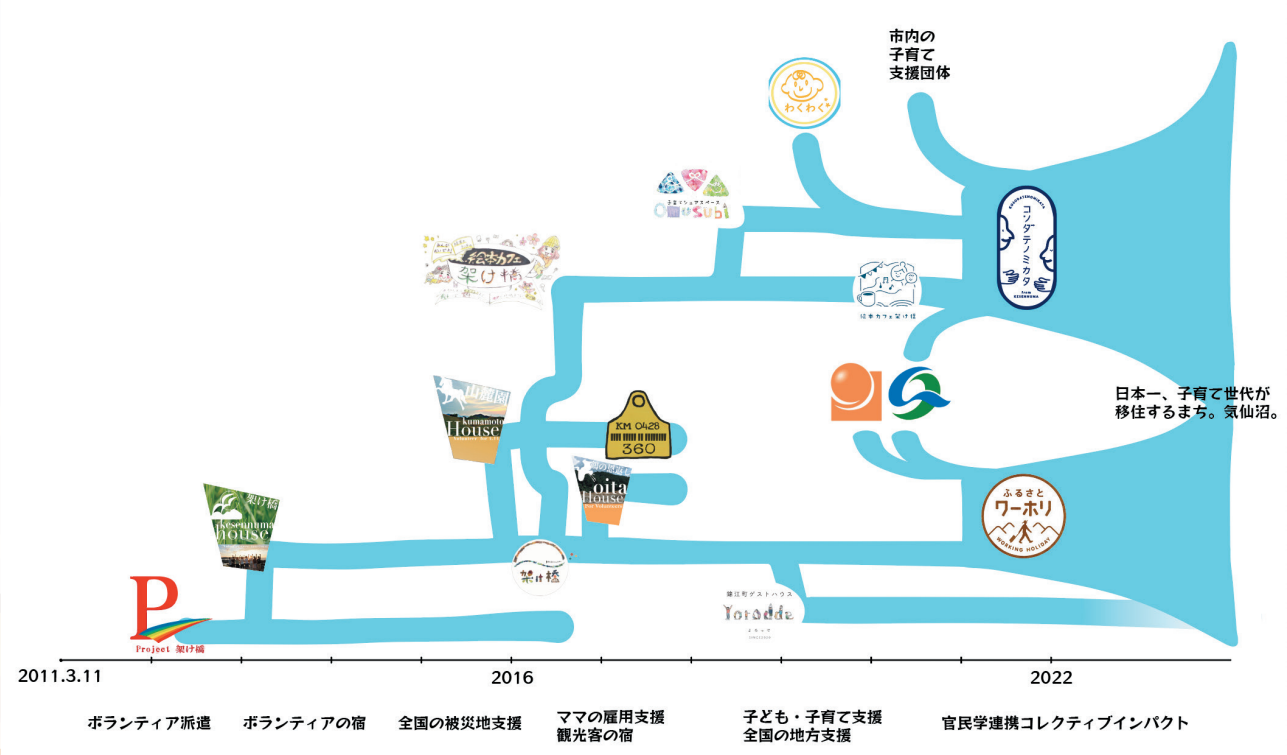
昨年度から始まった研究事業では、建築ストック活用の各段階を一体となった創造行為として理解し、全国の様々な実践からそれぞれ段階とその関係の間の良質な型の抽出を試み（詳細は 1.2 参照）、一定の成果を上げることができたと考えている。今後も実践研究からビジョン達成に向けた歩みを着実に進めていく。

2012 年 5 月 13 日から復興支援団体 Q.E.D.Project 架け橋（学生運営の任意団体）として活動を開始した当法人は、九州の大学生を東北にボランティアとして派遣する活動、被災地との信頼関係構築のために長期滞在を希望する全国のボランティア向けのゲストハウス、空き家×被災地支援モデルの全国展開（H28 熊本地震、H29 大分集中豪雨）と、復興集中期間（内閣府が定めた 10 年間の復興期間の前期 5 か年）を駆け抜けてきた。

復興・創生期間（後期 5 か年）においては、ボランティアの宿としての役割を終えた空き家に、復興後も多くの人に訪れてほしいという思いから観光客という新たなターゲットを設定したゲストハウスの展開。また、昼間に空間が空いていることに着目し、子連れ出勤でき、子どもとママの集う場である「絵本カフェ」事業を皮切りに、「子育て環境実態調査事業」「一時預かり託児所」など子育てに関する課題が山積していた気仙沼市の子育て環境改善を行う活動を展開していった。また、ゲストハウス事業についても全国の自治体やソーシャルアントレプレナーの依頼を受け、まちづくりに寄与するゲストハウスという視座から活動を広げてきた。

震災前の豊かな街並みに戻ったとは言いづらく、心の復興は決して進んでいるとは言えない中で、コロナ禍の震災 10 年を迎えるという大変な現実が未だ被災地には横たわっている。1 団体や自治体に提言するだけでは変えられないこの課題を解決する上では、研究機関と連携して確かなエビデンスを持ってビジョンを設定し、ビジョンを同じくする団体が活動を共にし、自治体と共にアクションをおこしていくコレクティブインパクト※の概念が重要である。今年度は、その具体的な取り組みについて紹介していく。

※コレクティブインパクト（Collective Impact）とは、アメリカのコンサルティング会社 FSG のボードメンバーである John Kania 氏と Mark Kramer 氏が 2011 年に発表した論文「Collective Impact」の中で提唱された概念である。
当法人では、「特定の社会課題に対して、ひとつの組織の力で解決しようとするのではなく、行政、企業 NPO、基金、市民などがセクターを越え、互いに強みやノウハウを持ち寄って、同時に社会課題に対する働きかけを行うことにより、集合的（Collective）なインパクトを最大化すること、また、その枠組みを実現するためのアプローチ」（John Knaia & Mark Kramaer, 2011）と定義する。



1.1 気仙沼子育てコレクティブインパクトプラットフォーム”コソダテノミカタ”

（全体構想を行うメンバー）

1.1.1 活動背景

気仙沼市は３世代世帯が多く、地域コミュニティも盛んで、助け合いながら子育てができる町であったが、震災により、核家族化が進んだことで、子育てを取り巻く環境は大きく変容した。こうした状況の中、震災後の社会的緊急度の高さから復興予算で、子育て環境を改善しようとする市民活動が活発になったが、震災から１０年が経過し、予算が削られ、活動の中止を余儀なくされたことから、現状解決のため連携事業実施に至った。

そこで、気仙沼市の子育て支援団体と行政が連携し、包括的な子育てコミュニティを創造する。各支援団体が自ら価値を発信し、自立に向け成長し、多種多様な居場所が継続する仕組みをつくり、持続可能なまちづくりを目指す。

1.1.2 課題設定

●震災後希薄になった子育て・子育ちコミュニティの再生

震災後の祖父母世帯の減少 (40~70 代犠牲率 65.3%)

地域コミュニティの変化 (定住期間 5 年未満の世帯震災前 14.1% →震災後 28.2%)

●産みにくい、育ちにくい市内の環境改善

合計特殊出生率の低下 (2011 年 1.49 → 2019 年 1.16)

●夫婦の子どもの産む数の減少 (子どもがいない又は 1 人の夫婦が 75.9%。県内でワースト 3 番目)

（市議会議員との意見交換会）

1.1.3 昨年度末の構成メンバーと所属団体（五十音順）

赤畑 綾子（モリノネ）
足立 岬（気仙沼まち大学運営協議会）
大森 美和（にじのわ助産院）
小野寺 佳子（気仙沼市保健福祉部子ども家庭課）
熊谷 愛（けせんぬま森のおさんぽ会）
小林 峻（合同会社 colere）
佐藤 賢（NPO 法人ピースジャム）
佐藤 祐美（子育てシェアスペース Omusubi）
志田 ももこ（合同会社 colere）
菅原千枝子（気仙沼市震災復興・企画部人口減少対策統括官）
杉浦 美里（けせんぬま森のおさんぽ会）
鈴木 和海（認定 NPO 法人 Cloud JAPAN）
田中 惇敏（認定 NPO 法人 Cloud JAPAN）
半沢 裕子（一般社団法人おりがみ）
星 麻希（子育て支援わくわくけせんぬま）
松本 光基（株式会社クロコカンパニー）
村上 和佳奈（子育てシェアスペース Omusubi）

1.1.4 昨年度の活動内容

●個別伴走支援の実施　合計 53 回

子育て支援団体の活動が持続可能を担保することにより、市内の子育ての選択肢を多様化する目的で、法人化・事業受託・組織開発の支援を行った。

その結果、具体的に以下 3 つの目標を達成した。

・2 団体の法人設立完了

絵本カフェ架け橋→一般社団法人おりがみ設立

子育て支援わくわくけせんぬま→一般社団法人 Omusubi と合併し一般社団法人 Ripple(リプル) を設立。

・一般社団法人おりがみが事業拡充へ向けクラウドファンディングを実施しこれを支援した。当初目標 121 万円に対し総額約 151 万円の寄付が集まった。

・わくわくけせんぬまが地域子育て支援拠点事業 (ひろば型) の受託決定。

●子育て団体連携企画実施　合計 17 回

子育て支援団体が自立するまでのベーシックインカムとしての活動費を負担し、以下の受益者があった。

→一時預かり事業「子育てシェアスペース Omusubi」: 1187 名

→屋外活用事業「森のおさんぽ会」: 730 組

→助産院事業「にじのわ助産院」: 198 名

→コミュニティ形成事業「子育て支援わくわくけせんぬま」: 1320 組

→カフェ事業「一般社団法人おりがみ」: 701 組 (内 課題解決事業：子ども食堂 101 人)、出張託児事業：173 名

●子育て団体連携企画実施　合計 17 回

子育てにまつわる活動に多くの関係者を巻き込むため、以下の連携企画を行った。

・市子ども家庭課連携ミーティング実施　合計 10 回

・意見交換座談会実施及び今後の連携事業の模索　気仙沼市議会議員 6 名

議員座談会は 8/17(火) に開催し計 6 名の市議会議員に出席頂いた。

・意見交換座談会実施・行政及び民間の子育て支援団体訪問実施・今後の連携事業の模索　市内児童館 5 箇所主任 5 名

児童館連携に向けて児童館職員 4 名と第一回ミーティングを 12/10 (金) に実施。普段の活動の様子などお互いに情報交換を行い、利用者へ適切な子育て情報を届ける為には民間団体と児童館職員がお互いの活動をより知ることが必要との意見が出た。意見を元に 2 月と 3 月に民間団体スタッフと児童館職員が双方の施設を共にまわる子育て支援施設ツアー（2/3 大島・鮪立・鹿折児童館の 3 ヶ所訪問。3/3 本吉支援センター・赤岩児童館・気仙沼児童センターの 3 ヶ所訪問。3/10・3/25 の 2 日間、児童館 4 ヶ所の職員が自施設を臨時閉館し民間施設 4 ヶ所 (子育てシェアスペース Omusubi/ わくわくけせんぬま / 家カフェ HATA/ にじのわ助産院) の見学受入）を行った。

・意見交換座談会及び今後の連携事業の模索　市内子ども子育て支援団体（プレーワーカーズ・浜わらす・あそびーばー）

9/29(水) 気仙沼市内の子ども子育て支援団体及び児童館 5 施設との座談会「児童館 , 支援団体さんと考える気仙沼の子ども・子育てのこと」を開催。約 20 名が参加し団体紹介と意見交換の後グループワークを行い “ 気仙沼の子ども・子育て環境が良くなるために必要なことは何だろう？ “ をテーマに議論を深めた。

（児童館との意見交換会）

（タウンミーティングの様子）

●連携プロジェクトに関する活動実施　合計 135 回

プラットフォーム内（子育て支援団体間）の連携強化及び各個別団体のみでは運営が難しいプロジェクトを実施することを目的とし、今年度のビジョン・ミッション・バリューを策定した。（fig.1）。その上で A~L の活動テーマを設定し、6 グループをつくり活動を行った（fig.2）。

①タウンミーティング・イベント開催

市内の子育て関連イベントの企画・準備・運営を行う

②コソダテノミカタの方向性・広報

コソダテノミカタの活動の方向性を考え、各活動の気仙沼市内外への広報活動を行う

③情報周知

まだ支援活動の情報が届いていない市内の子育て中の親子への周知方法及び活動へ参加しやすい方法を検討する

④周囲の意識改革

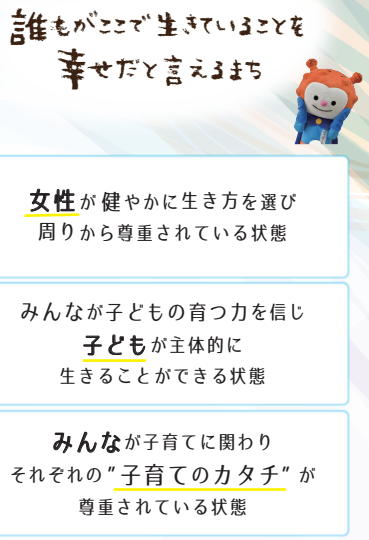
子育て中の親子を取り巻く周囲の人々の子育て意識の向上を目的とした企画を検討する

⑤企業連携

子育てのしやすい職場環境向上に向けて市内企業と連携を行う

⑥勉強会

コソダテノミカタ全体またはメンバー個人のスキルアップに繋がる勉強会を行う



（fig.1 コソダテノミカタの VMV）

その結果、以下の具体的な活動に繋がった。

・けせんぬま子育てタウンミーティング vol.3-4 の開催

「けせんぬま子育てタウンミーティング vol.3」を 10/27 開催。子育て中の母親を中心に 26 名の参加と 12 名の託児利用があった「このまちでどんな子育てしたい？」をテーマに気仙沼で子育てをする上で喜びや課題と感じる事を自由に出し合い意見交換を行なった。

「けせんぬま子育てタウンミーティング vol.4」を 11/23 開催。祝日開催としたためワーキングマザーやパパ、独身者、子育てがひと段落した祖父母世代など幅広い方々にご参加頂き 31 名の参加と 19 名の託児利用があった。5 グループに分かれて「このまちでどんな子育てしたい？」をテーマに気仙沼で子育てをする上で喜びや課題と感じる事を自由に出し合い意見交換を行なった。

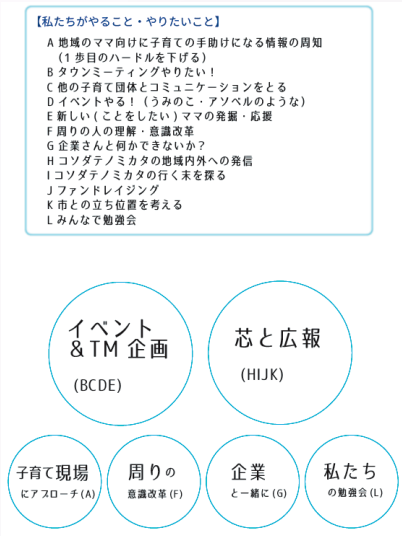
・アクションベースの子育て情報発信サイト作成

子育てにまつわるアクションが多ければ多い方が子育てしやすいという仮説の元、3 月末に完成。

公式ホームページ→ http:// コソダテノミカタ .com

・誕生祝金にリーフレット及びティーパックの同封

気仙沼市が行なっている「誕生祝金」郵送の際に各支援団体の活動をまとめた情報誌を同封することが可能となった（次項 fig.3-4）。産後 1 ヶ月頃のママの体調面を考慮して各施設の情報は一部とし、主な掲載内容は各団体代表者より出産や育児を労うメッセージを掲載することで整理をした。“ 一息ついて欲しい ” との願いも込めて紅茶のティーパックを同封している。



（fig.2 テーマとグループ）

●調査研究事業ミーティング実施　合計 34 回
タウンミーティングやインタビューを通して得た生の質的情報と、統計等より抽出した量的情報を掛け合わせ、気仙沼の子育て環境を分析した論文（11 ページ）にまとめ、実践政策学会へ投函した。
●事務局定例ミーティング実施　合計 50 回
プラットフォームの活動全体を円滑に行うべく、以下のメンバーを事務局として会議を行った。
大森 美和（にじのわ助産院）/ 小林 峻、志田 ももこ（合同会社 colere）
鈴木 和海、田中 惇敏（認定 NPO 法人 Cloud JAPAN）
松本 光基（株式会社クロコカンパニー）

（fig.3 同梱物の様子）

以上、受益者数合計：（7,197）名
内訳…未就学児（3,179）名　　年長 - 小学生（1,058）名
　　中学生 - 大学生（　0　）名　　その他　（　2,960　）名
（※属性 子育て中のママパパ：2,923 名、市議会議員：6 名、気仙沼市職員：11 名、児童館職員：16 名、子ども子育て支援団体：4 名）

1.1.5 受益者からの声
●連携企画に関する声
・子育てタウンミーティングの参加者アンケートより
→実際に子育てをしている方の話を聞けたのが良かった。子育てをしたいと思っていたので、背中を押された。
→これほど活気のある意見の出しやすい談話式子育てイベントは初めてでした。
→市外の方から「気仙沼は違うよね（いい意味で）」「雰囲気いいよね」と言われるのは、こういう事かと再認識しました。進化しています。
●支援対象者からの声 (一例)
・わくわくけせんぬま利用のママより：ここに来ていなかったら 3 人目を産もうと思えなかった。子育て出来ていなかったと思う。
・森のおさんぽ会参加のママより：コロナで遊び場を選ばないといけない状況だけれど自然の中にいるときは自分も子どもにおおらかな気持ちで向き合える気がする。
・おりがみ 家カフェ HATA 利用のママより：食事のときにスタッフさんが子どもと遊んでくれて久しぶりにゆっくりご飯が食べられて嬉しかった。

（fig.4 リーフレット詳細　A3 見開き　左：表面　右：裏面）

Cloud JAPAN

1.1.6 メディア掲載履歴

- 新聞掲載：計 21 回
  - 三陸新報 15 回
  - 河北新報 2 回
  - 毎日新聞 2 回
  - 朝日新聞 1 回
  - 河北新報ふれあい交差点掲載 1 回
- 地方テレビ番組放送：計 5 回
  - NHK 仙台放送 1 回
  - 仙台放送 1 回
  - 気仙沼ケーブルネットワーク 3 回
  - 福岡放送 1 回
- 気仙沼移住ガイドブック掲載 1 回

1.2 建築ストック活用の民衆化を目指した支援の研究

1.2.1 研究概要

建築ストック活用に関する研究は、設計・施工に加えて、運営面を含めて検討する必要がある。当法人では、6 年間にわたって地方における建築ストックの活用を支援してきたが、属人的に知見を広めることに限界を感じている。そこで、本研究では、建築ストック活用の議論が活性化してきた過去 10 年間において災害レジリエンスにより発現した little-c の中心的な存在となった東日本大震災の被災地、全国の空き家活用、コロナ禍のゲストハウスを対象に分析することで、建築ストックに関する「企画・設計・施工」と「持続可能な運営」のトランザクションをパターン・ランゲージの手法を用いて整理し、全てのソーシャルアントレプレナーが地域での課題解決を考えた際に建築ストックを活用することのできる社会を目指す。

1.2.2.　研究成果の背景

本研究事業を進めるにあたり、「設計」「施工」「運営」は切り離されるものではなく、「社会変化」まで含めたグラデーションを持って研究対象にする必要があることが分かってきた（fig 5）。なお、ここでいう「社会変化」とは、出生率の向上、移住数の増加など個別の実践や政策では手の届かない成果を指す。

また、「ある土地に社会的意義のある建築物が建つ」という時間経過の中に建築並びに創造をテーマとした際に扱う領域の差異があることが実践を通して見えてきた。

1.2.3 今年度の研究活動内容

本研究事業では、3 の研究テーマに大別して取り組んだ。ここでは、前項の「社会変化」をパターン・ランゲージという手法を用いた支援によって生まれた結果であると位置付け仮説構築を行なっている。

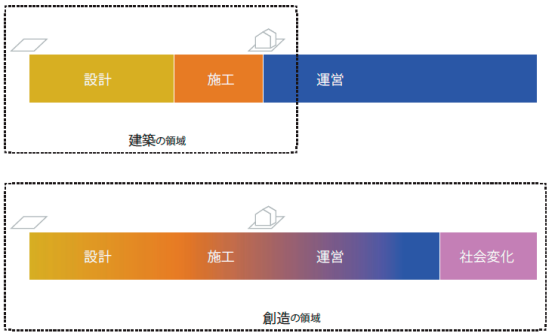
1.2.3.1　テーマ設定

上記の仮説を検証するため、昨今の社会情勢を鑑み、１つ目のテーマは「①コロナ禍におけるゲストハウスのレジリエンスのパターン・ランゲージ」、社会変化を評価軸として捉えることを目的として「②気仙沼市における子育てのしやすさに関する研究」、設計・施工において起こっている事象を検討することを目的として「③サウナＤＩＹを通じた創造実践と共通言語構築の研究」とした（fig.6）。

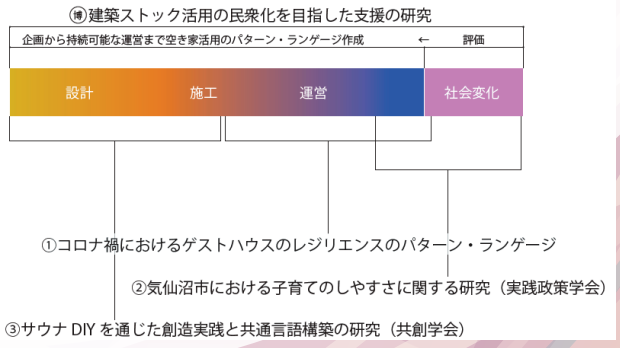
1.2.3.2　進行スケジュール

本研究事業の進行にあたっては、可能な限りのオンライン環境の活用、感染状況の変化に合わせたマイニング調査日の調整、関係者全員のフィールド内

（fig.5 建築ストック活用における建築と創造の領域）



（fig.6 主題と研究テーマの関係）



外での定期的な PCR・抗原検査、検温など新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に最大の配慮を行った上で行われた。その結果、2022 年 3 月 31 日現在、以下の通り計 297 日･156 名の関わる本研究事業内において陽性者･濃厚接触者は確認されていない。
表 1 の通り、本研究事業は滞りなく進めることができた。なお、①②③は前項のテーマ設定と対応している。

（表 1：研究活動内容一覧）

期間	内容	対象者	場所
6/ 2- 3/31	③創造実践	37 名	気仙沼
8/14- 1/14	①実地調査	9 名	全国 8 箇所
10/27,11/23	②イベント開催	106 名	気仙沼
9/ 1- 3/31	① PL 作成	4 名	Online

1.2.4 研究成果

①コロナ禍におけるゲストハウスのレジリエンスのパターン・ランゲージ

コロナ禍で優れたレジリエンスを発揮している全国の 8 ヶ所のゲストハウスにマイニング・ダイアローグを行った（表 2）。事業規模や活動内容も様々となっており、様々な実践の経験則を明らかにすることができた。

現在は、この経験則を体系化している最中であり、完成し次第、感染状況を鑑みて Web 一般公開を行う予定である。その後、フルディスクリプションのダウンロード時に集めたゲストハウス運営者に利用した上での効果をヒアリングし、都市計画学会へのジャーナル投稿を行う計画となっている。

（表 2：マイニング・ダイアローグ実施記録）

No.	実施日	参加メンバー	実施場所	実施時間	文字数
1	2021/8/14	田中惇敏、岡西未来、加納健太郎	オンライン	1 時間 29 分 17 秒	30,746 字
2	2021/10/27	田中惇敏、岡西未来	オンライン	44 分 32 秒	14,421 字
3	2021/11/12	田中惇敏、川邊悠紀、岡西未来	オンライン	1 時間 8 分 37 秒	25,761 字
4	2021/11/18	山中陽、田中惇敏、岡西未来	オンライン	1 時間 44 分 9 秒	35,929 字
5	2021/12/5	小川隆行、田中惇敏、岡西未来、田中彩夏	Ogaga ゲストハウス	53 分 51 秒	16,129 字
6	2021/12/6	半田守、小曽根雅彰、鈴木あすみ、田中惇敏、岡西未来、木原葵、田中彩夏	ゲストハウス元湯	2 時間 31 分 56 秒	55,442 字
7	2021/12/7	犬養拓、田中惇敏、岡西未来、木原葵、田中彩夏	有鄰庵	1 時間 56 分 00 秒	23,253 字
8	2021/12/7	犬養拓、田中惇敏、岡西未来、木原葵、田中彩夏	ブリコール	1 時間 18 分 59 秒	25,083 字
9	2021/12/13	細田朋弘、田中惇敏、岡西未来、田中彩夏	Wise owl hostel Kyoto	51 分 29 秒	16,290 字
10	2022/1/14	柚木理雄、田中惇敏、岡西未来、田中彩夏	Little japan	53 分 57 秒	16,402 字

②気仙沼市における子育てのしやすさに関する研究

気仙沼市では、比較的規模が大きく、多様性に富んだ官民連携の子育て環境改善プロジェクトが進んでおり、出生率向上や子育て世代の移住者が集まってきている。本テーマは、気仙沼市と著者が代表を務める「けせんぬま子育てコレクティブインパクトプラットフォーム“コソダテノミカタ”」の共同で行った「けせんぬま子育てタウンミーティング」であがった市民の声と経済学的な統計結果から、地方における「こそだてのしやすさ」の一般化を目指した研究である。（研究内容の詳細は、3 月末に実践制作学会にジャーナル投稿したため控えさせていただく。）

前項で示した「社会変化」が明らかになれば、気仙沼市の空き家活用の事例であり、当法人が設計施工運営に携わっている実践にあたる「子育てシェアスペース Omusubi」との関係を整理することで主題全体を語ることのできる事例となると考えている。

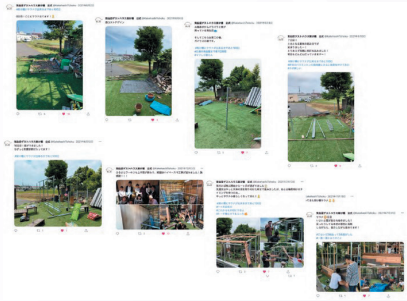
vol.4（2021.11.23）の参加者：大人 38 名、子ども 20 名

vol.3（2021.10.27）の参加者：大人 35 名、子ども 13 名

③サウナ DIY を通じた創造実践と共通言語構築の研究

総務省主催「ふるさとワーキングホリデー」（以下、「ふるさとワーホリ」）事業の一環で宮城県気仙沼市に来訪した参加者は、地域での就労体験としてサウナ DIY に取り組でいる。彼らによるサウナ DIY という共創行為は、どのように「ふるさと」を形成しているのだろうかという視点から、本研究では、ふるさとワーホリ参加者及び、プロジェクト担当者、地域住民などのサウナの DIY という共創行為に関与している参加者らの内的世界を描写し、それらの経験がどのように再解釈されているのか理解する。なお、宮城県気仙沼市のふるさとワーホリ運営主体は、当法人が実施団体となって参加者の受け入れやプログラムのコーディネートを行っているため、研究範囲は現場での実践に加えて、活動後のアンケート内容や個別ヒアリングも含む。

今回の研究対象となるサウナの特徴は設計施工の経験のないふるさとワーホリ参加者らが「就労」の一環として貸し出された工具を用いてサウナ建設に参画している点である。2022 年 2 月 28 日まで 9 ターム行われたふるさとワーホリ期間中に 37 名の参加者が関わった（写真 1）。２つ目の特徴として、あえて設計図を描かいて、その完成イメージに合わせてつくっていくというアプローチではなく、当日の参加者によって、つくる行為や作品そのものに内在しているイメージに寄り添って育てていくアプローチをとったことである。



（写真 2）

３つ目の特徴として、作成過程を随時 SNS 等で発信すること（写真 2）により、過去に関わった参加者の行動変容（再訪や関係施設への訪問）の変化を経過観察していることである。（研究内容の詳細は、共創学会にジャーナル投稿予定となるため控えさせていただく。）

本テーマは、前々項の「設計」「施工」時における創造性の発現とその効果を語る上で重要である。建築面積 10㎡以下であるため建築確認申請が必要なく、かつ、個人作業ではなし得ない行程が多々あることで、豊かな共創的な取り組みが生まれている。

1.2.5 今後の展望

今回の本研究事業で各領域の重要な要素が明らかになった。この論点を採用し、企画から持続可能な運営までの空き家活用における研究を進めていく。具体的には、全国の豊かな建築ストック活用事例を調査し、「企画から持続

（写真 1）

可能な運営までの空き家活用のパターン・ランゲージ」の作成を行う。
また、「東北へのボランティア派遣団体 Project 架け橋→ボランティアの宿としてのゲストハウス架け橋→観光客の宿としてのゲストハウス架け橋→全国への広まり→レジリエンスの発現 →新たなゲストハウスのあり方が生まれる」という実践からも仮説構築を行いたい。
その後、完成したパターンを活用し、全国で新たに空き家活用を行う中で有用性を示し、5 か年計画で論文としてまとめる計画である。

2. ソーシャルアントレプレナーが集う場の運営支援事業

本事業では、全国での活動支援するにあたり、経験を貯蓄し続けること、つまり私たち自身もソーシャルアントレプレナーであり続けることが大事であると感じており、「気仙沼ゲストハウス”架け橋”」を運営している。

2.1 気仙沼市ふるさとワーキングホリデー

今年度からコレクティブインパクトの文脈で、総務省・気仙沼市・市内の企業と連携した「気仙沼市ふるさとワーキングホリデー事業」（気仙沼市 令和３年度（委託）第 865 号）を運営している。

2.1.1 プログラム実施概要・実施実績

実施概要

参加者の成長機会を創造するプログラム（仕様書第７条(3)ア）

学生及び 20 代から 30 代までの若者を主な対象とし、１ヶ月の期間で滞在することを想定し、本市を参加者が成長する機会としてプログラムを企画した。プログラムに必要な事業者との調整を行った。受入企業は、参加者に対して講習会やワークショップを行った。

企画名	**お試し移住④[成長]**
趣 旨	①～③プログラムは「学び」（パッシブラーニング）の意図が近いが、現在活躍する移住者を見ると、気仙沼を「成長」（アクティブラーニング）の舞台として参入した人材が多い。また、移住に際して課題となる家という概念を捉え直す機会としてシェアハウスでの共同生活を経験した。
ターゲット	成長したい大学生
就労趣旨	企業インターンとして、これまで多くの移住者を輩出してきた滞在型企業インターンを行った。

実施実績

開催日時	8 月 13 日～9 月 12 日 （現地滞在 30 泊 31 日）	2 月 26 日～3 月 27 日 （現地滞在 30 泊 31 日）
就業先	・合同会社 colere ・以下のインターン先とインターンシップ契約を行った。 (1)株式会社菅原工業(1 名) (2)株式会社パートナーズ(2 名) (3)NPO 法人はまわらす(2 名) (4)NPO 法人 Cloud JAPAN(1 名)	・合同会社 colere ・以下のインターン先とインターンシップ契約を行った。 (1)株式会社菅原工業(1 名) (2)株式会社パートナーズ(1 名) (3)株式会社カネダイ(1 名) (4)株式会社石渡商店(3 名) (4)NPO 法人 Cloud JAPAN(2 名)
宿泊先	(1)気仙沼ゲストハウス“架け橋” (2)気仙沼シェアハウスつんとばり	(1)気仙沼ゲストハウス“架け橋” (2)気仙沼シェアハウスつんとばり (3)民宿さかや(1 泊のみ)
スケジュール	8 月 10 日 17:00-19:00 プログラムキックオフ/全体顔合わせ(オンライン) 8 月 11～12 日 地域理解研修(オンライン) 8 月 13～14 日 気仙沼への移動日 8 月 16～17 日 ビジネス研修(オンライン) 8 月 18 日 プロジェクトキックオフ(オンライン) 8 月 18～22 日 プロジェクト推進期間(オンライン) 8 月 23～9 月 10 日 プロジェクト推進期間(対面) 9 月 11～12 日 気仙沼からの移動日 9 月 13～17 日 成果まとめ期間(オンライン) 9 月 17 日 18:30～20:30 成果報告会(オンライン) 9 月 18 日 10:00-12:00 修了研修（オンライン）	2 月 21,24 日プログラムキックオフ/顔合わせ(オンライン) 2 月 16～25 日健康チェック・体温管理・PCR 検査 2 月 26～27 日 気仙沼への移動日 2 月 28～3 月 3 日頃 オンラインインターンシップ（宿舎にて体調経過観察） 3 月 4 日頃～3 月 25 日 対面インターンシップ 3 月 25 日 18:30-20:30 最終報告会
参加人数	6 名	8 名

実施概要

求職求人のマッチング機会の創造をするプログラム（仕様書第７条(3)イ） 卒業後に就職を希望する学生や求職者を主な対象として、7 日から 31 日までの期間で、滞在することを想定したプログラムを企画し、域内就職を想定した支援を行う。また、プログラムに必要な事業者との調整を行う。	
企画名	**お試し移住②［就活連携］**
趣　旨	本プログラムでは就職活動を行う学生向けにお試し移住①を改定したプログラムとして位置付けている。就活生は一般に移住しやすい対象であり、集中的に支援することで目標達成に寄与する。
ターゲット	企業紹介から大学 3 年生・大学院 1 年生、ほか大学生～休職中の人
就労趣旨	実際の短期就労を通して、就職して働く場所として気仙沼市を認識してもらう。

実施実績

開催日時	現在、参加者なし

実施概要

都市間の関係人口を増加させるプログラム（仕様書第７条(3)ウ）

テレワークや副業兼業可能な若者及びオンライン授業を受講する大学生等の二地域居住が可能な者を主な対象とし、7 日から 31 日までの期間で、滞在することを想定したプログラムを企画し、地域間交流を促進する事業を行った。また、プログラムに必要な事業者との調整を行った。

企画名	**お試し移住①[スローライフ]**	**お試し移住③[多拠点居住]**
趣　旨	昨今、若年層を中心にオンライン化（会議、講義等）をはじめとするニューノーマルの中、地方での長期滞在型観光ニーズが増えている。移住の一歩目として、まずは気仙沼を知り、学び、楽しめることで選択肢として提示した。	多拠点居住という新たなライフスタイルの提案がなされている。なんでもある便利な都会に住みながら、たまにはスローライフな気仙沼に住む。そんなライフスタイルを提案した。
ターゲット	日常生活の場を移すことが容易な大学生から新卒 3 年目くらいまで	都市部に在住のリモートワーカー 2 回目の参加者
就労趣旨	日頃体験できない楽しい作業を行った。作業の中でも地域住民と話のできる機会を作った。	都市部で培った経験を生かしつつ、気仙沼ならではの仕事ができる就労先を紹介する。

実施実績

開催日時	①　6 月 21 日～6 月 30 日【0 名】 ②　7 月 12 日～7 月 21 日【1 名】 ③　7 月 17 日～7 月 26 日【3 名】 ④　7 月 31 日～8 月 9 日【1 名】 ⑤　8 月 14 日～23 日【6 名】 ⑥　8 月 28 日～9 月 6 日 【コロナにより中止】 ⑦　9 月 11 日～20 日 【コロナにより中止】 ⑧　9 月 18 日～9 月 27 日【8 名】 ⑨　11 月 1 日～11 月 8 日【4 名】 ⑩　11 月 12 日～11 月 21 日【3 名】 ⑪　11 月 24 日～12 月 3 日【5 名】 ⑫　12 月 5 日～12 月 14 日【5 名】 ⑬　12 月 17 日～12 月 26 日【3 名】 ⑭　1 月 30 日～2 月 8 日【5 名】 ⑮　2 月 12 日～2 月 26 日【2 名】 ⑯　3 月 1 日～3 月 10 日【6 名】	参加希望者より要望があった日時
就業先	・株式会社おかえり【32 名】 ・F.U.C.P【9 名】 ・三陸わかめ屋ムラカミ【3 名】 ・山長小野寺商店【7 名】 ・観光コンベンション【3 名】 ・小野寺ファーム【2 名】 ・藤田商店【1 名】 ・	・株式会社おかえり【13 名】 ・藤田商店【2 名】 ・くるくる喫茶うつみ【1 名】 ・三陸わかめ屋ムラカミ【1 名】 ・蔵内之芽組【1 名】 ・co-ba【1 名】
宿泊先	(1)気仙沼ゲストハウス“架け橋” (2)気仙沼シェアハウスつんとばり (3)唐桑御殿つなかん (4)気仙沼プラザホテル (5)民宿さかや(1 泊のみ)	(1)気仙沼ゲストハウス“架け橋” (2)気仙沼シェアハウスつんとばり (3)唐桑御殿つなかん (4)民宿さかや(1 泊のみ)
スケジュール	1 日目 ［チェックイン：16～18 時ごろ予定］ チェックイン ［ 夜 ］　架け橋で夕食（自己紹介） 2 日目 ［朝活］　伝承館の見学など ［日中］　気仙沼市内のまち歩き ［ 夜 ］　架け橋で夕食	1 日目 ［チェックイン：16 時～18 時ごろ予定］ チェックイン ［ 夜 ］　架け橋で夕食（自己紹介） 2 日目 ［朝活］　伝承館の見学など ［日中］　気仙沼市内のまち歩き ［ 夜 ］　架け橋で夕食

	3～7 日目 ［就業］　気仙沼市内の企業有償インターン ［ 夜 ］　宿や飲食店、シェアハウスで夕食・語り部・学びの場（観光客、移住者、地域住民らとともに） 8 日目～ 観光、就労等本人の意思に合わせて現地で滞在スケジュールのコーディネートを行った。	3～日目 ［就業］　気仙沼市内の企業有償インターン ［ 夜 ］　宿や飲食店、シェアハウスで夕食・語り部・学びの場（観光客、移住者、地域住民らとともに） 観光、就労等本人の意思に合わせて現地で滞在スケジュールのコーディネートを行った。
参加人数	52 名	17 名
その他	現地までの交通費及び現地での食費は自己負担とした。	

実施概要

（仕様書第７条(3)エ） 乙は、甲に対して、同号アからウまで定めるプログラムの他に、実施状況や社会情勢に合わせて必要なプログラムを企画提案し、甲の承諾を得て実施した。		
企画名	お試し移住⑤[子育て環境]	出張交流会⑥[出張気仙沼]
趣　旨	本プログラムは、気仙沼子育てコレクティブインパクトプラットフォーム「コソダテノミカタ」（構成団体：絵本カフェ架け橋、一般社団法人 Omusubi、けせんぬま森のおさんぽ会、わくわくけせんぬま、にじのわ助産院、気仙沼市/代表：田中惇敏氏）が行なっている「日本一子育てしやすい地域、気仙沼。」プロジェクトの視察を行うと共に、地域の子育てままが生き生きと子育てをし、挑戦している姿を見ることを主眼に置いた。	本プログラムは、上記①～⑤に参加した移住検討者が居住地の都心で移住検討者コミュニティを作ること及び移住したい気持ちを向上することを目的に開催する。気仙沼の滞在中は、参加者が固定されるため、横断的に関心の近い人を繋げることで、まとまった移住の議論ができると考えている。
ターゲット	気仙沼市からの人口流出が続く若い女性層	東京、大阪、福岡など参加者の見込まれる都心の住民
就労趣旨	気仙沼市内の子育て団体と一緒に活動することを通して、自分の今後のキャリアを考えるきっかけを作った。	なし

実施実績

開催日時	参加希望者より要望があった日時	10 月 17 日
就業先	一般社団法人 Omusubi	
宿泊先	(1)子育てシェアスペース Omusubi （シェアハウス） (2)気仙沼ゲストハウス“架け橋”	大阪市内の Airbnb Airbnb：542-0075 大阪府大阪市中央区 難波千日前 5-30 三陽グリーンハイツ 屋上
スケジュール	1 日目 ［チェックイン：16～18 時ごろ予定］ チェックイン ［ 夜 ］ 架け橋で夕食（自己紹介） 2 日目 ［朝活］ 伝承館の見学など ［日中］ 気仙沼市内のまち歩き ［ 夜 ］ 架け橋で夕食 3～7 日目 ［就業］ 気仙沼市内の企業有償インターン ［ 夜 ］ 宿や飲食店、シェアハウスで夕食・語り部 8 日目～ 観光、就労等本人の意思に合わせて現地で滞在スケジュールのコーディネートを行った。	15時：スタッフ集合 17時会場：抗原検査・検温・チェックイン 17時30分：参加者と買い出し 21時：解散 22 時：チェックアウト（宿泊できる参加者は宿泊）
参加人数	5 名	8 名
その他	現地までの交通費及び現地での食費は自己負担とした。	

2.1.2 申込状況

申込者数	190 名	
参加者数	88 名	
期　間	2021 年 5 月 1 日～2022 年 3 月 31 日	
属　性	18～20 歳 21～23 歳 24～26 歳 27～29 歳	25 名 46 名 13 名 4 名

概要

本事業を 5 月から運営を行い、190 名の申込に対し 88 名が本市に訪れた。面談や事前アンケート・事後アンケートの結果から参加者の申込経路から、参加者の属性をまとめた。

流入経路

図 1 は、本事業を認知してから、受入企業先とのマッチングまでの流れを表したものである。図 1 の「認知」にあたる「本事業をどのように知ったか」の事前アンケート結果によると、最も多く約半数を占めた「友人や知人からの紹介」であった（図 2）。数値的なデータとして残すことはできなかったが、「友人や知人からの紹介」の中には、ゲストハウス架け橋のお客様からの紹介があった一方で、他自治体のふるさとワーキングホリデーに参加した過去参加者からの紹介というケースも存在した。昨年度は、気仙沼市のワーキングホリデーに参加した過去参加者からの紹介は少なかった為、今年度は過去参加者からの紹介や口コミを大事にしたい。また、詳細の数値に関しては、「年度末報告参加者、移住者及び移住者の家族等で住民登録をした者の一覧」に元データが記載されている。

図 1 ワーホリ申込から企業のマッチングまでの流れ

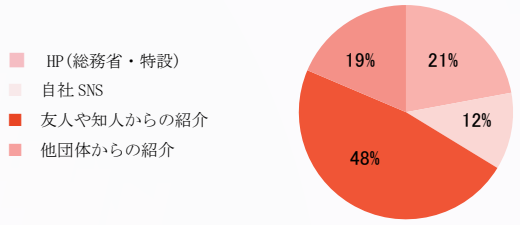


図 2 ワーホリ参加者の申込に至るまでの流入媒体
※「2 回目参加」は除外した数値となっている。

都道府県別参加者

図 3 は、本事業の申込者を都道府県別でグラフに表したものである。この結果からは、ふるさとワーキングホリデーの趣旨に該当する都心部からの申込が多いことがわかる。特に「東京都」「神奈川県」などの関東圏からの申込が多い。詳細の数値に関しては、「年度末報告参加者、移住者及び移住者の家族等で住民登録をした者の一覧」に元データが記載されている。

図 3 ワーホリ申込者の都道府県別申込者数

所属別申込者数

図４は、本事業の申込者を所属別でグラフに表したものである。

【大学 1～2 年生：18～20 歳くらいの世代】
［前提］
・コロナ禍により、行動の制限をかけられ大学の講義もオンライン講義となり、家族やバイト以外の交流の機会、コミュニティー形成の機会を失っていた。
・これから新しいことを経験してみたいという時期。
［傾向］
・地域志向(自分の関心分野や学びの場として)
・専門志向(自分の興味のある分野のことを実体験してみたい)
・交流志向(人との出会いや面白そうだからという深いは理由ないけど、新しいこと経験してみたい)

【大学 3～４年生：20～23 歳くらいの世代】
［前提］
・これからのファーストキャリアを考える時期、または実際に動いている時期。
・大学４年生は、卒論のみの学生が多い。
・インターンなどをこの時期から見つめる人が多い。
［傾向］
・地域志向(地方を就職先候補にしている人もいる)
・専門志向(自分の関心分野や学びの場として)
・迷走志向(今後の進路に悩んでいる)
・休息志向(休息の場として)

【社会人：23～29 歳くらいの世代】
［前提］
・ミレニアル世代[1]
［傾向］
・休息志向(休職中など何かしらの理由で肩の力を下ろしたい)
・転職活動志向(すぐではないがいずれ地方の移住を検討している)

詳細の数値に関しては、「年度末報告参加者、移住者及び移住者の家族等で住民登録をした者の一覧」に元データが記載されている。

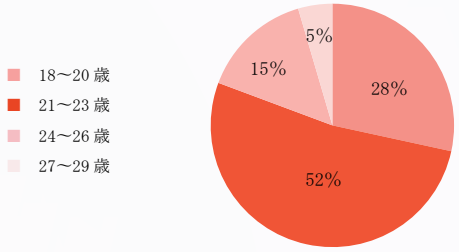


図４ ワーホリ申込者の所属別申込者数

[1] ミレニアル世代とは。参考 URL：https://www.kaonavi.jp/dictionary/millennials/

2.1.3 参加者からの声と参加後の動向

移住・定住促進施策に関する課題の抽出・整理（仕様書第７条(3)オ）

乙は、同号アからエまでに定めるプログラムの参加者に対して、甲の移住等に関するアンケート調査を行う。

「ふるさとワーキングホリデー移住に関するアンケート」を作成した。さらに、参加後の動向の整理を行った。

移住に関するアンケートの質問項目の中に、「気仙沼とは、今後どのような関わりをしたいと思ってますか？」という質問項目がある。図５のとおり、「いずれ移住をしてみたい」、「お試しに移住をしてみたい」、「定期的に訪問したい」を選んでいる人が多くを占めている。実際の行動歴については、表１から読み取れる。

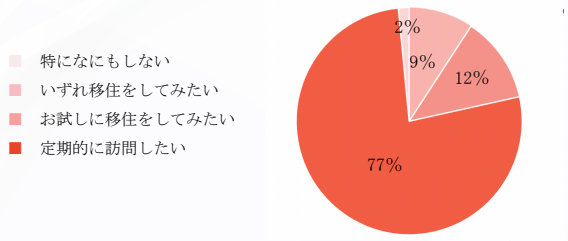


図５ 参加後の気仙沼との関わり方

「いずれ移住をしてみたい」と答えた人の３分の２が、移住もしくは再度訪問している。また「お試しに移住をしてみたい」と答えた半数も、再度訪問している結果となった。

個数 / 気仙沼とは、今後どのようし 列ラベル 行ラベル	なし	移住	遠方	訪問	総計
いずれ移住をしてみたい	2	2		2	6
お試しに移住をしてみたい	4			4	8
定期的に訪問したい	34	1	3	12	50
特になにもしない	1				1
総計	**41**	**3**	**3**	**18**	**65**

表１ 参加後の気仙沼との関わり方

「

▼表の説明

「なし」…参加後の関わりなし。

「移住」…気仙沼に移住。

「遠方」…気仙沼には訪れてないが、出張架け橋などに訪れる。

「訪問」…ゲストハウスに宿泊、もしくはワーキングホリデーに２回目参加。

また、「移住に関するアンケート」とは別に、過去参加者からランダムに抽出してアンケート調査を行った。再度気仙沼に訪問した人は、気仙沼での滞在でどのような要素があると、リピーターに繋がるのかというアンケート調査を行った。(回答数 30)

値	訪問した	訪問していない（現在、する予定もない）	未だ訪問はしていないが、今後訪問する予定がある
平均 / 2-1.架け橋で夕飯を食べる時間が好きだ。	1.43	1.57	1.09
平均 / 2-2.架け橋で夜にするボードゲームには積極的に参加する方だ。	2.00	2.00	1.82
平均 / 2-3.架け橋にいる間、つい夜更かしをしてしまう。	1.29	2.00	1.73
平均 / 2-4.普段の生活で、寝る時間は深夜0時を超えることが多い。	1.71	2.57	2.00
平均 / 2-5.夜、参加者それぞれの人生について考え合う時間が好きだ。	1.29	1.57	1.73
平均 / 2-6.滞在中、空いた時間があれば1人でも散歩に行っていた。	2.43	3.29	3.00
平均 / 2-7.1滞在中は1人で行動することに抵抗はない。	2.29	1.57	1.55
平均 / 2-8.スタッフや地元の人におすすめされた場所に行くことができた。	1.29	1.57	1.18
平均 / 2-9.気仙沼で行きそびれた場所ややり残したことはない	3.00	4.00	2.91
平均 / 2-10.滞在中、外食することが多かった。(コンビニでのご飯は含まない。)	1.71	2.57	2.18
平均 / 2-11.気仙沼で感動するくらい美味しいと感じた食べ物がある。	1.14	1.86	1.64
平均 / 3-1.滞在期間中、地元住民と一緒に外出することがよくあった。	2.29	3.71	3.00
平均 / 3-2.地元の人が架け橋に訪問してくれた時、積極的に交流していたと思う。	1.86	2.86	2.09
平均 / 3-3.再度気仙沼に訪問することになったら気軽に連絡が取れる、スタッフもしくは地元住民がI	1.14	2.14	1.36
平均 / 4-1.企業での就労は単純作業だと感じた。	4.00	3.14	3.36
平均 / 4-2.体を動かして対価（給料）をもらうことが好きだ。	2.43	2.14	1.55
平均 / 4-3.仕事を選ぶとき、お金よりやりがいだと思う。	2.00	2.43	2.09
平均 / 4-4.就労中に、同じ職場の人と他愛のない会話ができたと思う。	1.43	1.71	1.27
平均 / 4-5.企業の人と一緒にご飯を食べに行った	1.86	2.86	1.27
平均 / 4-6.就労後、疲労が蓄積していると感じたことがある。	2.43	4.29	3.18

表２ 満足度とその後の行動歴

※1 が「よく当てはまる」、5 が「とても当てはまらない」の５段階評価で行ったアンケート調査である。

参加後に気仙沼に訪問した人と、そうでない人の相違点に関して、顕著に数字に結果として出ている項目をここで取り上げることにする。まずはじめは、「2-3 架け橋にいる間、つい夜更かしをしてしまう」である。この点は、架け橋に滞在した人に限った質問になるが、夜はみんなでゆっくり話をしたりやボードゲームをすることが多い。他愛のない話をすることもあれば、１人ひとりが普段感じている違和感や悩み、将来の話をゆっくりと対話することも多々ある。そういった意味で、夜遅い時間までみんなと時間を共有できた人ほど、リポーターに繋がっている。それが質問項目「2-5 夜、参加者それぞれの人生について考え合う時間が好きだ」に繋がっている。

「2-6 滞在中、空いた時間があれば１人でも散歩に行っていた」も、行けていたほどリピーターに繋がっているが、なぜなのかという理由をここで考察することができなかった。

「2-10 滞在中、外食することが多かった」も行けていた人ほどリピーターに繋がっている。参加者同士で外食をしに行っている場面が多数みられた。

「3-1 滞在期間中、地元住民と一緒に外出することがよくあった」と「3-2 地元の人が架け橋に訪問してくれた時、積極的に交流していたと思う」も、地元住民との交流の有無がリピーターに繋がっていると感じた。
「3-3 再度気仙沼に訪問することになったら気軽に連絡が取れる、スタッフもしくは地元住民がいる」という質問項目に関しても、気軽に連絡がとれるスタッフや地元住民の存在が大切だと読み取れる。スタッフは参加者 1 人ひとりのフォロー担当性にしていたことや、架け橋に遊びに来る地元住民との交流の結果だと感じる。
「4-1 企業での就労は単純作業だと感じた」は、単純作業だと感じなかった人の方が、また「4-6 就労後、疲労が蓄積していると感じたことがある」も単純作業より、体を思いっきり動かした第一次産業や、頭をつかったクリエイティブな仕事の方が、リポーターに繋がっていることが読み取れる。「4-4 就労中に、同じ職場の人と他愛のない会話ができたと思う」と思った人ほど、「4-5 企業の人と一緒にご飯を食べに行った」人ほど、リピーターに繋がっており、就労先の人との深い交流の有無も大事だと読み取れる。

次の質問は、表 3 の「なにがあれば気仙沼に移住しようと思うか」というアンケート項目である。

質問：あなただったら、なにがあれば気仙沼に移住しようと思いますか？

行ラベル	個数 /
仕事	13
交通の利便性	13
自分のやりたいこと	6
コミュニティ	6
家	5
地元に溶け込めるか	4
魅力のある人	4
求められているか	2
生活に溶け込めるか	1
教育環境	1
業務スーパー	1
水洗トイレ	1
寒さ	1
短期移住できるシステム	1
文化施設	1
自然	1
外国人	1
移住サポート	1
パートナー	1
(空白)	
総計	**64**

表 3　なにがあれば移住しようと思うか

大半を占めているのが、「仕事」と「交通の利便性」である。交通の利便性に関しては、都市部に住んでいる層の多くは、車の免許を持っていたとしてもペーパーの人が多い。その為、現地での移動手段の不安点が挙げられると推測する。また、都市部と気仙沼への交通アクセスのしやすさも 1 つ懸念点として挙げられていた。
次は「仕事」について述べる。仕事を選んだ人の多くが、自分に合う仕事に出会えるかであった。数は少ないが、魅力のある仕事や収入に合う仕事も記述の内容に含まれていた。自分に合う仕事に出会えるかどうかは、「自分のやりたいこと」を気仙沼でできるかどうかに繋がるのではないかと推測する。コミュニティは、地元の人・移住の人に関わらず、集える場所があるか、友人ができるかどうかの不安が挙げられた。「地元に溶け込めるか」は、地元住民からよそ者にされないか、うまく溶け込めるかどうかの不安点であった。「魅力のある人」も多数回答にあるように、「人」の要素が強いことが読み取れる。さらに次に出てくる「求められているか」にもあるように、そういった「人」から、「私」がこの地域に求められているかが大事だと感じる。

次の質問は、表 4 の「移住検討をする上で、知りたい情報はなにか」というアンケート項目である。

質問：気仙沼への移住を検討する上で、より知りたい情報はありますか？

リクルート情報	10
移住者の声	10
家賃	6
生活の費用	4
地元住民の声	4
家探し	3
災害対策	3
地域特性	3
コミュニティ	2
福祉の充実度	2
暮らしの情報	2
移住にかかる費用	2
気仙沼の課題	2
子育て環境	2
自分に合う職場	1
イベント情報	1
暮らしのサポート	1
地元住民の存在	1
冬の過ごし方	1
プロジェクト情報	1
(空白)	
総計	**61**

表 4　移住検討の上で知りたい情報は？

多くが、「移住者の声」「リクルート情報」がほしいとの声がある。
今年は、コロナ禍ということもあり、移住者や気仙沼の人と繋ぐきっかけを大いに作れたわけではなかった為、この数値に出ていると感じた。
またリクルート情報に関しても、移住検討している人に対しては個別で気仙沼での進路相談に乗っていたが、全参加者に対して一貫したリクルート情報を分かりやすく伝えることが不十分になってしまった。
家賃や生活の費用、家探し、移住にかかる費用について気になる人が多数いることが読み取れる。弊法人がシェアハウス事業を行っていること、市内でのシェアハウスもいくつかあることを考えると、市内で連携して移住を検討している人に対してのフォローをより一層行う必要があると感じた。この点に関しても、実際に移住者の声を聞いてみたいという声が多数あった。
地元住民の声に関しては、どのような地元住民がいるのかについて気になっていると記述していた。
2022 年度は、気仙沼の「人」により焦点をあて、魅力のある移住者に繋げたり、地元の人と繋げることによって地元に溶け込める不安感をなくすことに繋げられたらと考える。
リクルート情報に関しては、MINATO さんや雇用創造協議会などとより一層連携して行っていきたい。

同アンケートにて、他のふるさとワーキングホリデーに参加した者に、他地域と気仙沼を比較した時に気仙沼のワーキングホリデーの良さについてのヒアリングも行った。そこでは、「地元民との交流」「同タームに参加したワーホリ参加者との共同生活による交流」「スタッフとの距離が近いこと」が挙げられた。アンケート調査ではないが、気仙沼のワーキングホリデーに参加した人の中には、宮城県栗原市のおてつだびに参加した参加者も多数いた。そのおてつたびの魅力は？という質問に対して、おてつたびを担っている行政職員との距離が近いことが挙げられた。運営スタッフとの距離の近さなどの、「人」との距離の近さが、満足度向上に繋がっているのではないかと感じた。

移住者・関係人口		
内 訳	ワーホリ参加移住者 スタッフ関係移住者 ワーホリ関係人口	3名(プラス4月移住確定者2名) 4名(プラス4月移住確定者1名) 21名

詳細リスト

●ワーホリ参加移住者

	名前	移住時期	進路
1.	並木　綾人	1月19日移住済	東京より移住/CJで就労
2.	笹岡　海咲	12月移住済	大阪より移住/Omusubi滞在/他企業にて就労
3.	五十嵐 裕麻	10月31日移住済	埼玉より移住/他企業にて就労
4.	今村　ちひろ	4月移住予定	愛知より移住/CJで就労
5.	柳瀬　彩花	4月移住予定	兵庫より移住

●スタッフ関係移住者

	名前	移住時期	進路
1.	田中　惇敏	4月14日移住済	福岡より移住/CJにて就労
2.	田中　彩夏	4月14日移住済	東京より移住/他企業にて就労
3.	木原　葵	6月11日移住済	東京より移住/協力隊として就労
4.	田中　慧	10月1日移住済	茨城より移住/CJで就労
5.	畠山　千怜	4月移住予定	東京より移住/CJにて就労

●参加者のうち関係人口

	名前	関わり方
1.	浅井　七海	リピーターとして滞在場所ゲストハウス架け橋に宿泊
2.	永長　楓子	リピーターとして滞在場所ゲストハウス架け橋に宿泊
3.	植田　莉子	リピーターとしてふるさとワーキングホリデー3回目参加
4.	横田　真歩	リピーターとして滞在場所ゲストハウス架け橋に宿泊
5.	谷本　陸	リピーターとして滞在場所ゲストハウス架け橋に宿泊
6.	東田　琴梨	リピーターとしてふるさとワーキングホリデー2回目参加
7.	飯塚　一輝	リピーターとしてふるさとワーキングホリデー2回目参加
8.	井元　遥花	リピーターとしてふるさとワーキングホリデー2回目参加
9.	泉水　梨乃	リピーターとしてふるさとワーキングホリデー2回目参加
10.	佐藤　成希	リピーターとして滞在場所ゲストハウス架け橋に宿泊
11.	松本　瑶美	リピーターとして滞在場所ゲストハウス架け橋に宿泊
12.	庭田　祐輔	リピーターとしてふるさとワーキングホリデー2回目参加
13.	赤池　友吾	リピーターとしてふるさとワーキングホリデー2回目参加
14.	林　咲恵子	リピーターとして滞在場所ゲストハウス架け橋に宿泊
15.	金田　美咲	リピーターとしてふるさとワーキングホリデー2回目参加
16.	内田　有俊	リピーターとして出張交流会に参加
17.	佐藤　隼音	リピーターとして出張交流会に参加
18.	外所　祐香	就労企業先のクラウドファンディング活動に関わる
19.	升川　桃	リピーターとして滞在場所ゲストハウス架け橋に宿泊
20.	ベスト 海	リピーターとして滞在場所ゲストハウス架け橋に宿泊予定(5月)
21.	尾崎　里空	リピーターとして滞在場所ゲストハウス架け橋に宿泊予定(4月)

2.1.4 企業連携

受入企業数	13 社
受入企業一覧	・株式会社おかえり ・F.C.U.P ・山長小野寺商店 ・小野寺ファーム ・合同会社 colere ・株式会社藤田商店 ・くるくる喫茶うつみ ・一般社団法人 Ripple(前、一般社団法人 Omusubi) ・三陸わかめ屋ムラカミ ・観光コンベンション ・株式会社男山 ・株式会社今 ・蔵内之芽組

企業様からの声

【受入企業先におけるメリット】
◎繁忙期における人員確保
・短期アルバイトの要素で人材をフレッシュな若者を県外から確保できる。

◎本雇用に向けた試用期間としての活用
・ワーホリ期間を新年度採用に向けた試用期間やインターンと位置づけることで、どのような人材かを見極めることができ、雇用後のミスマッチを防げる。

◎採用にかかる時間とお金の節約
・事業者の WEB サイト求人掲載料 0 円広報費 0 円。
→事務局で事業者様の希望の人材をヒアリングした上で、弊法人が面談を行う。
→事業者様と参加者の合意があればワーホリ終了後の継続雇用 OK。

◎参加者(就労先企業)へのサポート体制
・参加者様の就労以外のフォローや地域住民・生活のサポートなどは弊法人スタッフが参加期間中行う。

【ふるさとワーキングホリデー受入前のネック】

◎受入期間が短い
・基本的なメインプログラムは「9 泊 10 日」であった為、実質の就労日数は 5 日程度である。その期間の受入にあたって、教育コスト・賃金のコストがネックにある。短期間だと任せられる仕事も少なく、事業様の要望としては、最低 2 週間以上滞在の参加者さんがいいというお話を頂いていた。参加者 100 名目指すにあたり、どうしても中・長期滞在者(2 週間～1 ヶ月)メインでプログラムを回すことが比較的難しかった。
・プログラム設計や伴走の提案をしてくれたら、導入しやすいとの声もあった。

◎受入にあたってのリスク
・全事業様において懸念されていたのは、コロナウイルスにおける感染による事業の停止等であった。
・そもそもコロナ禍において、仕事が激減しており、人を受け入れる余裕がなかった。
・事業所様ごとに衛生管理の観点や怪我の観点など様々な理由で懸念される。

◎どのような人たちが来るのかわからない
・参加者の傾向は弊法人でお伝えできるが、事業様も受け入れる前は、参加者は何ができてどういう人柄なのかという点について、半信半疑の様子がみられた。
・実際に採用に繋がる人材に来てほしいという声があった。

【受入後のよかった点】
・県外から来る参加者の外からの視点・新しい視点を言ってもらえるのは嬉しかった。(有限会社ムラカミ専務様より)
・参加者が就労をしてくれたことで、別の仕事に時間を割くことができた。そのおかげで、機械の故障を見つけることができ、修理にまで至った。(小野寺ファーム 担当者様より)
・やりたかった F.C.U.P のクラウドファンディングをふるさとワーホリの子や架け橋のスタッフにやって頂けて本当に良かった。(F.C.U.P オーナー堀内様)

3. ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業

本事業では、クラウドファンディングを通して支援先団体の資金調達を支援している。

3.1 家カフェ HATA

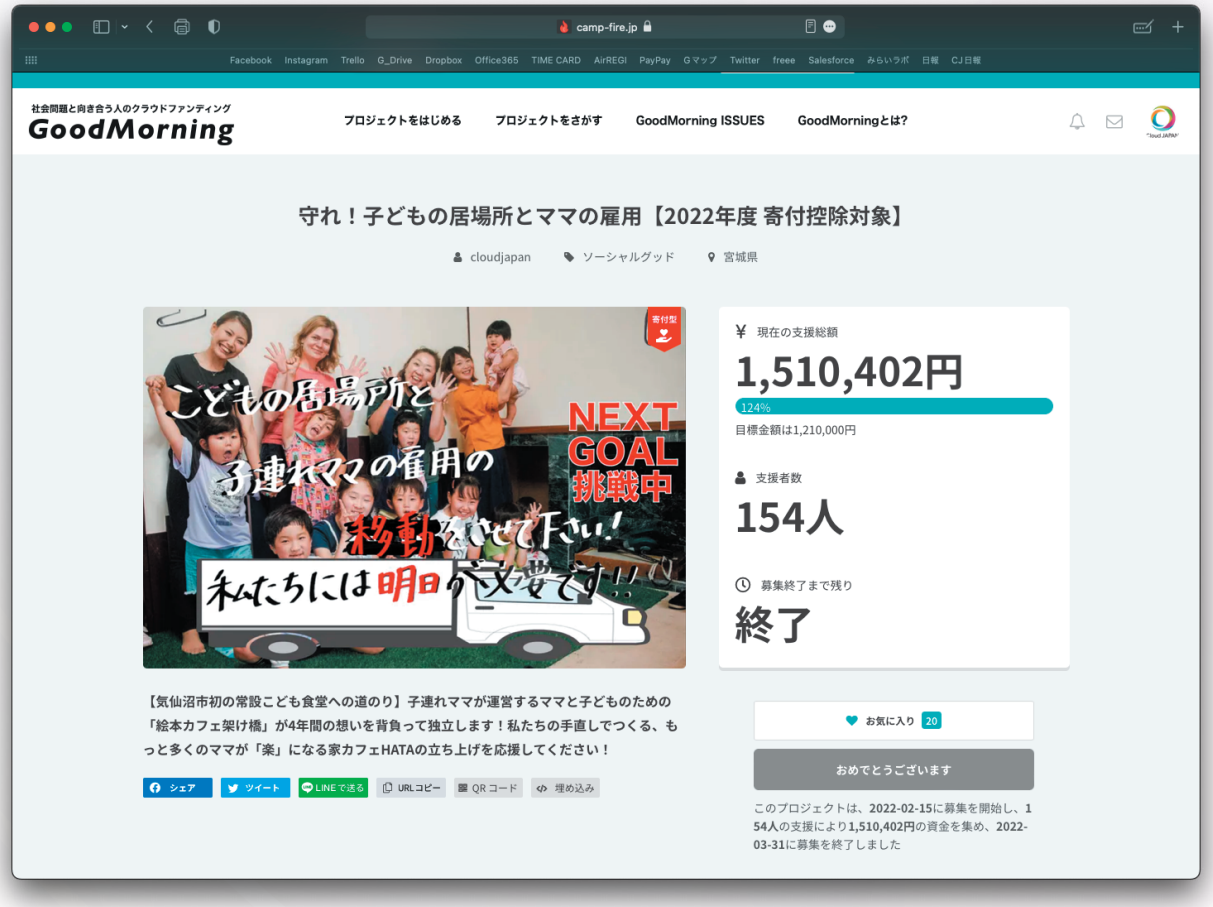
今年度は、ゲストハウス内で運営されていた絵本カフェ架け橋事業（事業代表:半沢裕子(当法人 副代表理事))の移転及び認定法人化記念のクラウドファンディングを行った。

リンク：https://camp-fire.jp/projects/view/418267/

2022 年 2 月 15 日から募集を開始し、154 人の支援により 1,510,402 円の資金を集め、3 月 31 日に募集を終了した。

目標金額 121 万円を上回る多くの方からのご支援により盛況の中、事業を完了することができた。

本事業では、対話型のプロジェクト掲載を行い、コロナ禍で現地に来ることができない中、イメージを持ってもらうべく工夫をこらした。



4. 地域で活動するソーシャルアントレプレナーに係る情報発信事業

本事業では、情報を取りまとめ発信することでソーシャルアントレプレナーを支援している。

4.1 講演活動

2021 年度は以下の通り、6 本の講演（オンライン含む）を行った。

日にち	場所	内容	参加人数
6 月 8 日	オンライン	トヨタ財団報告会	20 人
7 月 29 日	気仙沼商工会議所	気仙沼の未来創造	15 人
10 月 2 日	気仙沼市役所	小野寺部長朝活	8 人
12 月 10 日	滋賀県立大学	地域イノベーション特論	10 人
3 月 2 日	オンライン	総務省ワーホリ自治体説明	60 人
3 月 30 日	東京帝国ホテル	東京ロータリークラブ例会	100 人

5. ソーシャルアントレプレナーの育成及び事業促進の教育支援事業

本事業では、事業運営団体に実際に所属し、教育的な視座からソーシャルアントレプレナーを支援している。

地域	会社名	関係	事業内容
鹿児島県	株式会社燈	役員	定例役員会での指導
福岡県	NPO 法人 RAS 研究会	役員	資料の作成・会議運営
全国	株式会社キタイエ	業務委託	事業運営のサポート
宮城県	一般社団法人おりがみ	業務委託	決算資料の作成

5.1 錦江町ゲストハウス Yorodde

本事業では、錦江町より受託された「錦江町ゲストハウス運営支援事業」について説明する。受託から 3 年目を迎え、最終仕上げ期間として以下の活動を行った。

5.1.1 ゲストハウス運営支援業務

本章では、⑴ゲストハウス運営支援業務について事業実施内容を整理する。

5.1.1.1 目的

仕様書より再度、下記の通り転載する。

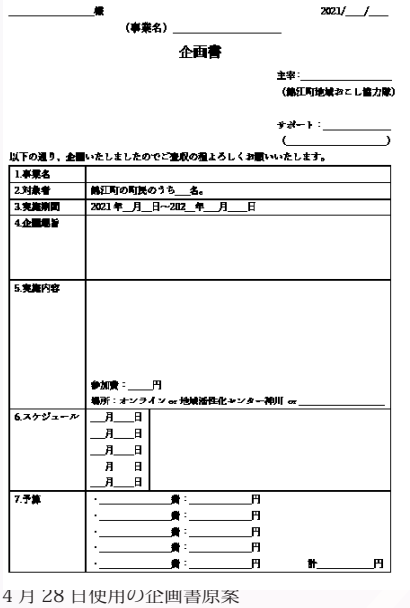
①ゲスト ハウスの経営全般の指導

②ゲストハウスでのイベント企画及び指導（ 町民とのワークショップ含む）

③当該施設等 への大学生などのセルフリノベーション 参加 への斡旋、紹介

5.1.1.2 業務内容

下記の業務を実施した。



_____様　　2021/___/___

（事業名）_____

企画書

主宰：_____

（錦江町地域おこし協力隊）

サポート：_____

（_____）

以下の通り、企画いたしましたのでご査収の程よろしくお願いいたします。

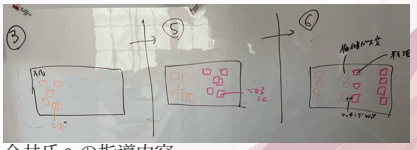
1.事業名	
2.対象者	錦江町の町民のうち__名。
3.実施期間	2021 年__月__日～2022__年__月___日
4.企画趣旨	
5.実施内容	参加費：____円 場所：オンライン or 地域活性化センター神川 or _____
6.スケジュール	__月___日 __月___日 __月___日 月　日 __月___日
7.予算	・_____費：_____円 ・_____費：_____円 ・_____費：_____円 ・_____費：_____円 ・_____費：_____円　　計_____円

4 月 28 日使用の企画書原案

5.1.1.2.1 コロナ後の対応検討及び立ち上げ支援

感染状況の落ち着いていた令和 3 年 4 月 26 日～ 30 日に弊法人代表理事の田中惇敏及び川嶋奎（一般社団法人 Omusubi スタッフ、気仙沼市地域おこし協力隊）の 2 名が支援に入った。

田中が山中氏らと共にコロナ禍においての経営方針を検討する中，川嶋が福

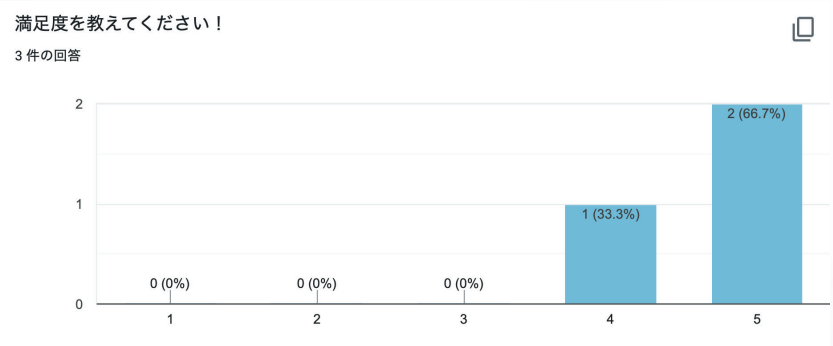


今井氏への指導内容

社分野の新規事業の提案，集客方法を検討，実施した。
また、令和 4 年 1 月 27 日、弊法人の招致した看護師及び他シェアハウス運営者と共にコロナが出た場合の対応策についてオンラインにおいて議論を行った。
立ち上げ支援として、該期間中の 4 月 28 日 10-12 時、「創造的な企画づくりのコツ」と題して、新たに着任した未来づくり専門員及び関係者に対して講義を行った。7 名が参加し、以下の通り参加後のアンケートを回答してもらえた。

4 月 28 日の様子

5.1.1.2.2 個別フォローアップ
上記の立ち上げ支援後、個別のフォローアップを行った。
具体的には、今井泰子氏が作成した企画書をもとに、23 件のメッセンジャーアプリ、 6 通のメールでの指導を行った。



差し支えなければ上記回答の理由を教えてください！
3 件の回答

自分のアウトプットを反省的に捉えるツールがあるということと、そのもとにある学問的ルーツを知れたので！
あつとしさんのイメージが自分の中で増幅した(ワークショップとは関係なく)

動く勇気をもらった！

今ある、考えている企画のブラッシュアップに役に立つ内容でした！ありがとうございました。

5.1.1.2.3 経営安定化までの月次売上報告作成支援
以下の項目立ての通り，山中氏の作成する売上報告及びレジの売上情報をもとに月次売上の報告及び分析を行った。
1. 各月総売上額：運営開始時からの売上総額の報告した。
2. カテゴリ別売上額：各月のカテゴリ毎の売上額の表を示し，分析を行った。
3. 商品別売上明細：各月の商品別明細を記載した。
4. 総評：スタッフからの日常のヒアリングをもとにしたアドバイスを行った。

5.1.2 起業・創業指導業務
本章では、⑵起業・創業 指導業務について事業実施内容を整理する。

5.1.2.1 目的
仕様書より再度、下記の通り転載する。
①未来づくり専門員 への新たな事業 づくり 、資金調達 、チームづくり等の指導

5.1.2.2 業務内容
下記の業務を実施した。

5.1.2.2.1 研修業務
以下の通り、感染状況を踏まえて 1 度開催した。
・2021 年 11 月 16 日 -21 日
参加者：山中氏，田中
視察内容：ふるさとワーキングホリデー視察 等
ヒアリング内容：以下の通り
・ゲストハウス事業の売上状況
・スタッフシフト & 給料
・時間ごとのスタッフの業務
・昼の架け橋の様子、活用方法
・スタッフ同士の連携、コミュニケーション、関係づくり
・スタッフの満足度、モチベーション管理
・シェアハウスの運営（集客、管理）の方法

5.1.2.2.2 経営会議参加
以下の通り，経営方針を進める会議等に参加してコメントをした。
・2021 年 4 月 27 日
内容:営業日 & 営業スタイルの変更 ,2021 年度の協力隊の動き , バイトスタッフ候補検討
雇用開始日程検討 ,1 年後までの売上目標の共有 , 井上との関わり方
山中別会社設立について , 山之口の空き家のスケジュール共有 等
・2021 年 7 月 6 日
内容：売上報告 , 現時点での決算書共有 ,7 月 8 月の企画 , 今後の組織について
・2021 年 12 月 19 日
内容：設立後， ２度目となる株主総会を開催した。開催にあたっては，田中が司会を務めた。
・2022 年 3 月 29 日
内容：来年度の方針を検討する役員会に参加した。

5.1.3 その他業務

5.1.3.1 目的

仕様書より、再度下記の通り転記する。

①上記⑴及び⑵のほか、事業に主体的に参加する人材の確保や育成のために有効な手法があれば 併せて指導 すること。

②業務実施にあたっては、打合せも含め 4 回以上は錦江町内で実施すること。

③必要 に応じ、未来づくり 専門員 等 と インター ネット会議を行うこと。

④指導回数や出張、錦江町滞在日数の過多による委託費の追加は行わない。

5.1.3.2　業務内容

5.1.3.2.1 学生団体連携

・一昨年度に連携関係を構築した「東京理科大学建築サークル DOC」と共に改修工事を進めていくことを検討し，代表の砂田氏他数名が活動に入った。

・気仙沼市において弊法人の企画に参加した浅井七海氏を紹介し、浅井氏はスタッフとして活動した。

5.1.3.2.2 現地業務

以下 4 回の計 25 日間の通り、NPO 法人 Cloud JAPAN 事業スタッフ及び研究チームが錦江町内で本事業を実施した。

令和３年４月２６日～３０日：立ち上げ支援

令和３年７月２日～８日：第 17 回定例会参加、活動支援全般

令和３年 10 月５日～ 12 日：活動支援全般

令和３年 12 月 17 日～ 21 日：総会参加、活動支援全般

6. 運営組織

以下の通り、役員の役職と所属をまとめ、社員の名簿をまとめる。

代表理事：田中 惇敏（慶應義塾大学 SFC 後期博士課程）

副代表理事：半沢 裕子（一般社団法人おりがみ代表理事）

理事：喜多 恒介（株式会社キタイエ代表取締役）

小出 悟（元 みしおね横丁 ワルンマハール店長）

川嶋 奎（元 気仙沼市地域おこし協力隊，一般社団法人 Omusubi）

監事：谷川 徹（e.lab 代表）

社員:木原葵、田中慧、並木綾人、畠山千怜、高田美由紀、伊藤愛、鈴木和海、竹中幸、佐藤慶治、佐川彩花、藤岡愛理、佐藤雅、齋藤広大

（2022 年 3 月末現在）

2021 年 4 月のチーム

また、本年度、絵本カフェ事業が新法人を設立し独立、気仙沼市鹿折地区に移転した。改修に当たっては、多くのプロボノ、ボランティアの支援を受け、無事に完成を迎えることができた。

絵本カフェ事業に従事していたスタッフは、副代表理事の半沢裕子が代表を務める一般社団法人おりがみのスタッフとして活動を続けている。

なお、これまで働いた母親は 17 名となり、総額 1,789 万円が母親の人件費に充てられた。

完成前夜祭の様子

7. 収支報告

7.1 ２０２１年度活動計算書

法人名： 認定特定非営利法人Cloud JAPAN

活動計算書

2021 年 4 月 1 日 ～ 2022 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
Ⅰ 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	130,000		
賛助会員受取会費	0	130,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	1,596,902	1,596,902	
3. 受取助成金等			
受取公的補助金	600,000		
受取公的助成金	7,475,050		
受取民間助成金	16,538,515	24,613,565	
4. 事業収益			
自主事業収益	7,362,112		
受託事業収益	16,335,660	23,697,772	
5. その他収益			
受取利息	65		
雑収益	0	65	
経常収益計			50,038,304
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
給料手当	17,446,328		
福利厚生費	719,093		
法定福利費	1,420,523		
人件費計	19,585,944		
(2)その他経費			
通信運搬費	398,900		
賃借料	572,000		
地代家賃	1,749,400		
旅費交通費	1,805,684		
諸謝金	3,006,960		
諸会費	22,500		
水道光熱費	962,020		
法定福利費	2,113,847		
支払手数料	111,185		
売上原価	3,047,218		
修繕費	17,820		
衛生管理費	297,306		
協礼謝金	51,429		
業務委託費	4,449,584		
支払助成金	9,702,140		
広告宣伝費	918,880		
雑費	151,207		
その他経費計	29,378,080		
事業費計		48,964,024	
2. 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	126,262		
人件費計	126,262		
(2)その他経費			
通信運搬費	21,600		
地代家賃	240,000		
広告宣伝費	19,428		
支払手数料	47,506		
保険料	56,340		
租税公租	553,900		
その他経費計	938,774		
管理費計		1,065,036	
経常費用計			50,029,060
当期正味財産増減額			9,244
前期繰越正味財産額			4,932,294
次期繰越正味財産額			4,941,538

「その他事業」は実施しておりません。

Cloud JAPAN

7.2 事業別損益の状況

（単位：円）

科　目	ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者が集う場づくり支援事業	ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者が集う場運営事業	ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業	地域で活動するソーシャルアントレプレナーにかかわる情報発信事業	ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者の育成および事業促進のための教育支援事業	**事業部門計**	管理部門	**合計**
Ⅰ　経常収益								
1.　受取会費	0	0	0	0	0	**0**	130,000	**130,000**
2.　受取寄付金	0	86,500	1,510,402	0	0	**1,596,902**	0	**1,596,902**
3.　受取助成金等	0	0	0	0	0	**0**		
受取公的補助金	0	0	0	0	600,000	**600,000**	0	**600,000**
受取公的助成金	0	7,475,050	0	0	0	**7,475,050**	0	**7,475,050**
受取民間助成金	15,880,000	658,515	0	0	0	**16,538,515**	0	**16,538,515**
4.　事業収益								
自主事業収益	1,365,641	5,910,971	0	85,500	0	**7,362,112**	0	**7,362,112**
受託事業収益	0	16,335,660	0	0	0	**16,335,660**	0	**16,335,660**
5.　その他収益	0	0	0	0	0	**0**	65	**65**
経常収益計	17,245,641	30,466,696	1,510,402	85,500	600,000	**49,908,239**	130,065	**50,038,304**
Ⅱ　経常費用								
(1)　人件費								
役員報酬	0	0	0	0	0	**0**	0	**0**
給料手当	0	17,446,328	0	0	0	**17,446,328**	0	**17,446,328**
福利厚生費	0	719,093	0	0	0	**719,093**	0	**719,093**
法定福利費	0	1,420,523	0	0	0	**1,420,523**	0	**1,420,523**
人件費計	0	19,585,944	0	0	0	**19,585,944**	0	**19,585,944**
(2)　その他経費								
通信運搬費	13,650	235,721	149,529	0	0	**398,900**	21,600	**420,500**
賃借料	322,000	250,000	0	0	0	**572,000**	0	**572,000**
地代家賃	1,266,500	482,900	0	0	0	**1,749,400**	240,000	**1,989,400**
旅費交通費	0	1,128,308	0	0	677,376	**1,805,684**	0	**1,805,684**
諸謝金	2,737,020	269,940	0	0	0	**3,006,960**	0	**3,006,960**
諸会費	0	22,500	0	0	0	**22,500**	0	**22,500**
水道光熱費	534,422	427,598	0	0	0	**962,020**	0	**962,020**
租税公課	0	0	0	0	0	**0**	553,900	**553,900**
法定福利費	38,779	2,075,068	0	0	0	**2,113,847**	126,262	**2,240,109**
支払手数料	1,520	109,005	0	0	660	**111,185**	47,506	**158,691**
売上原価	13,826	3,033,392	0	0	0	**3,047,218**	0	**3,047,218**
修繕費	17,820	0	0	0	0	**17,820**	0	**17,820**
衛生管理費	55,988	241,318	0	0	0	**297,306**	0	**297,306**
協礼謝金	0	51,429	0	0	0	**51,429**	0	**51,429**
業務委託費	1,503,520	2,946,064	0	0	0	**4,449,584**	0	**4,449,584**
支払助成金	9,312,140	390,000	0	0	0	**9,702,140**	0	**9,702,140**
広告宣伝費	0	918,880	0	0	0	**918,880**	19,428	**938,308**
雑費	0	151,207	0	0	0	**151,207**	0	**151,207**
保険料	0	0	0	0	0	**0**	56,340	**56,340**
その他経費計	**15,817,185**	**12,733,330**	**149,529**	**0**	**678,036**	**29,378,080**	**1,065,036**	**30,443,116**
経常費用計	**15,817,185**	**32,319,274**	**149,529**	**0**	**678,036**	**48,964,024**	**1,065,036**	**50,029,060**
当期経常増減額	**1,428,456**	**△ 1,852,578**	**1,360,873**	**85,500**	**△ 78,036**	**944,215**	**△ 934,971**	**9,244**

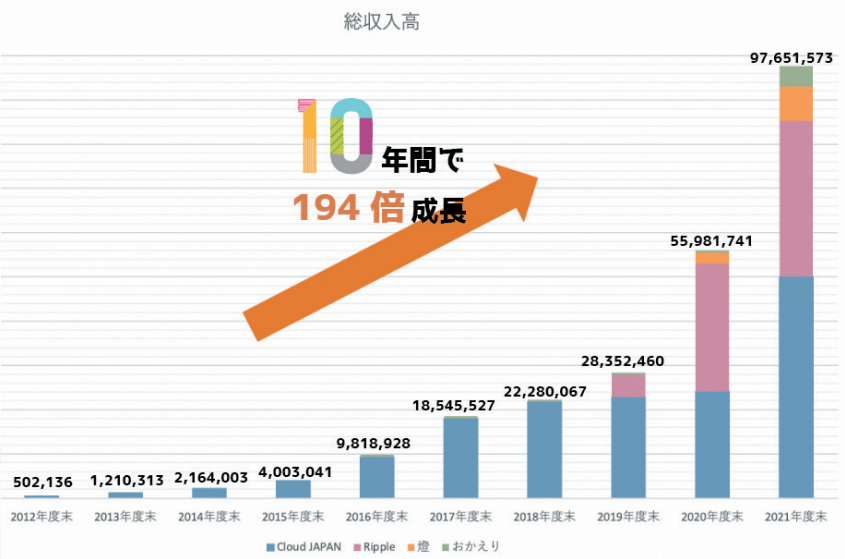
8. 終わりに

コレクティブインパクトという社会の変え方について－

まずは、今年度、晴れて認定法人になることができました。これは、皆様からの日頃のご支援の賜物（3,000 円以上寄付してくださった方が年間 100 人以上いる状態が 2 年間以上続くことによって Cloud JAPAN は認定法人となりました。）です。
私たちが頑張れるのも、頑張り続けることができるのも、私たちのことを想い続けてくださっている皆様のおかげです。
誠にありがとうございました。

さて、今年度はコレクティブインパクトをテーマに置いてはじめての 1 年でした。
様々な方が関わるため意見を合わせるのも一苦労、コレクティブインパクトを評価する上での個団体の費用負担の分担割合など一言でコレクティブインパクトといっても大変難しかった一面、振り返ると絶対に個団体やこれまでの連携の仕組みでは出してなかった成果も上がってきており、可能性を感じながら一年を終えることができました。

任意団体として発足してから 10 年という契機を迎え、本当に多くの皆さまに支えていただき、無事に成長することができていることを痛感します。
次の 10 年に向け、より一層尽力してまいりますので引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



認定 特定非営利活動法人 Cloud JAPAN
代表理事　田中 惇敏